

にいみなんきち

# 新美南吉の きつねの話

原作 新美南吉 脚色・演出 ぶじたあさや

美術 / 倉本政典 照明 / 福井孝子 音楽 / 岡田健太郎  
切り絵 / 中矢恵子 人形美術 / 加藤典子 映像 / 牛嶋宏樹  
衣装協力 / 幅上ちさと 大道具・小道具製作 / 管正憲  
宣伝美術 / SAM

「きつねのつかい」

「きつね」

「ごんぎつね」

「手袋を買いに」



新美南吉 (にいみなんきち)

1913年(大正2)7月30日  
～1943年(昭和18)

3月22日、愛知県知多郡半田町  
(現在の半田市)出身。

児童文学者。

東京外国語学校英語部文科卒業。

本名：新美正八 (にいみしょうはち)

(写真提供：新美南吉記念館より)

## ねえねえ、キツネって 化けるんだって知ってた？

キツネは、人を化かす、といわれています。キツネ以外の何かになつて、人間をだますのだといわれています。ほんとうでしょうか？

キツネは、人につく、ともいわれています。人の心が、キツネの心になってしまうのだそうです。ほんとうでしょうか？

「うそです」といってしまうと、おもしろくないので、「そうかもしれない」ということしておきましょう。

でも、そう思うと、いろいろなお話がわいてきます。いたずらずきのキツネの話。人を化かそうとして失敗するキツネの話……などなど。

でも考えてみると、これはみんな人間が想像したことなのです。キツネの話の聞いたわけではありません。キツネに化かされたというお話は、キツネに化かされたことにしたい人間のお話だし、キツネがついたというお話は、なにかをキツネのせいになりたい人間のお話なのでしょ。

愛知生まれの童話作家・新美南吉さんはキツネのお話をいくつも残しました。すてきなお話ばかりです。今日はその中から、お話を四つ選びました。聞いて、新美南吉さんの心をのぞいてあげてください。

ぶじたあさや

こんな時だからこそ、心に響く生の舞台をもしま願いがひとつだけ叶うなら…「世の中を元通りに」こんなことを願う日が来ようとは思ってもみませんでした。人と人の距離が心の距離になってしまったかのように感じます。このような状況下で、劇団として何ができるのか？ どうしたら安心してご覧いただけるのか？ そこで私たちは工夫を凝らして『密にならない立体的朗読芝居』を創りました。心の通い合いや優しさといった普遍的なテーマを描いた新美南吉のきつねの話。目で観て楽しめ、耳で聞いて想像し、心と心が触れ合える、愛知県出身の新美南吉の作品世界を、ぜひ生の舞台でお楽しみください。

劇団そらのゆめ

〒463-0035 愛知県名古屋市守山区森孝4丁目131

TEL & FAX 052-773-7375

Webサイト <http://soranyoyume.com>

TEL(直通) 090-1759-7916(川村)

E-mail [info@soranyoyume.com](mailto:info@soranyoyume.com)

